

第33回 虎ノ門フォーラム

主催： 特定非営利活動法人ユーラシア21研究所

日時： 2010年1月13日(水) 講演会 18:00～19:30
新年懇親会 19:30～20:30

場所： 海洋船舶ビル10階

プログラム

1. 開 会

2. 講 演

「日米関係の現状と展望」

講師： **西原 正 氏**

平和・安全保障研究所理事長、前防衛大学校長
当研究所理事

3. 質疑応答

4. 閉 会

配布資料

—悪化する日米関係の中で—

(レジュメ)

5. 新年懇親会

これからの虎ノ門フォーラムのご案内

2月10日(水) 18:00～ 「北朝鮮 戦略的動向」

講師： 阿久津 博康 氏

防衛研究所研究部第6研究室主任研究官、元岡崎研究所主任研究員

2010年1月13日 虎ノ門フォーラム

悪化する日米関係の中で

西原 正

平和・安全保障研究所 理事長

- 1 鳩山政権の未熟な外交手法
 - 閣僚の不統一発言
 - 民主党政権の反自民姿勢、外交の継続性軽視
 - 鳩山首相の「友愛」の理念

- 2 鳩山政権と日米同盟
 - 「緊密で対等な日米同盟」(2009年総選挙マニフェスト)
 - 普天間基地問題とグアム協定
 - 国際安全保障における日米同盟の意義に無配慮

- 3 鳩山政権の対中姿勢
 - 準備不足の「東アジア共同体構想」発表
 - 小沢氏率いる民主党関係者 600名の訪中団
 - 習近平国家副主席の天皇会見問題

- 4 日米同盟の今後
 - 日本の対米、対中発言権低下を防止すべき
 - 日米中関係は「正三角形」にあらざ
 - 日米安保条約改定 50周年に際し同盟戦略の再確認が必要

<講演概要>

民主党政権の外交の継続性軽視の背景に、「離米接中」戦略をよしとする考えがみえる。民主党幹部は、中国の経済的・軍事的脅威に対するリアルな認識に欠けている。

日米同盟弱体化は、アジア地域の不安定化そして国際社会における日本の発言権低下を招く。日米同盟の在り方は、国際安全保障の観点から考えるべきである。